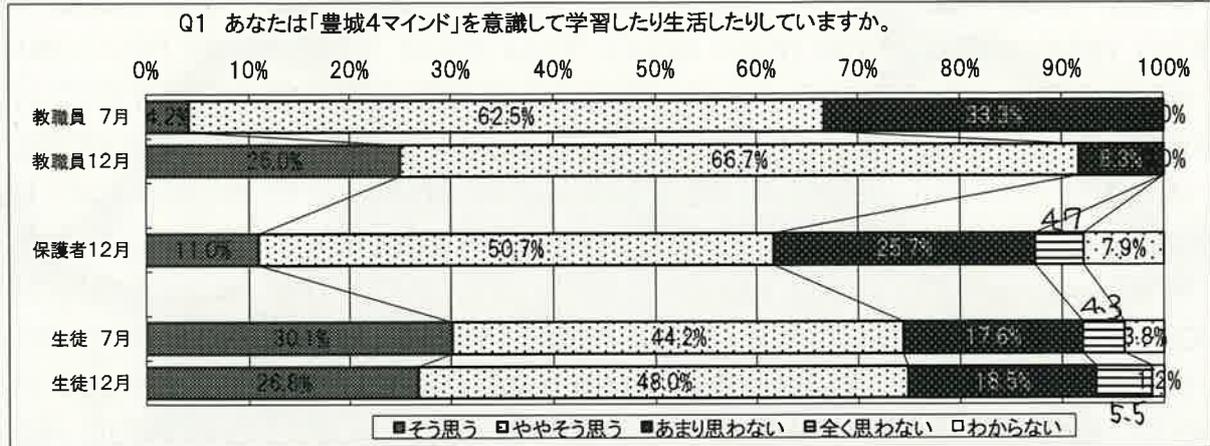


## 令和7年度 12月学校評価(7月との比較)について

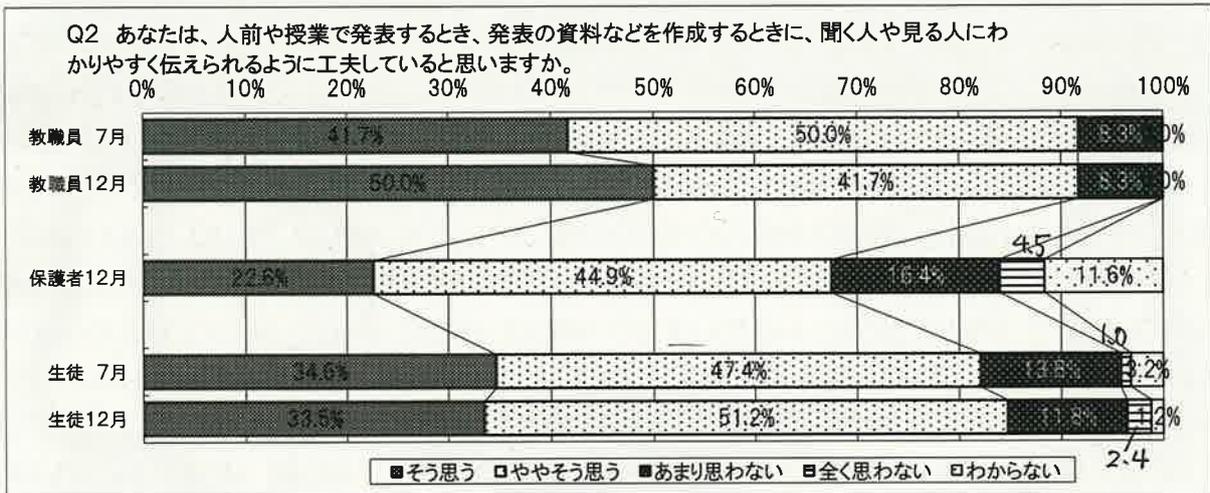
〈ねらい〉

○生徒がよりよい教育活動を受けられることを目指し、「学校をよりよくなる」ために、保護者、地域の方の協力により学校評価アンケートを行っています。

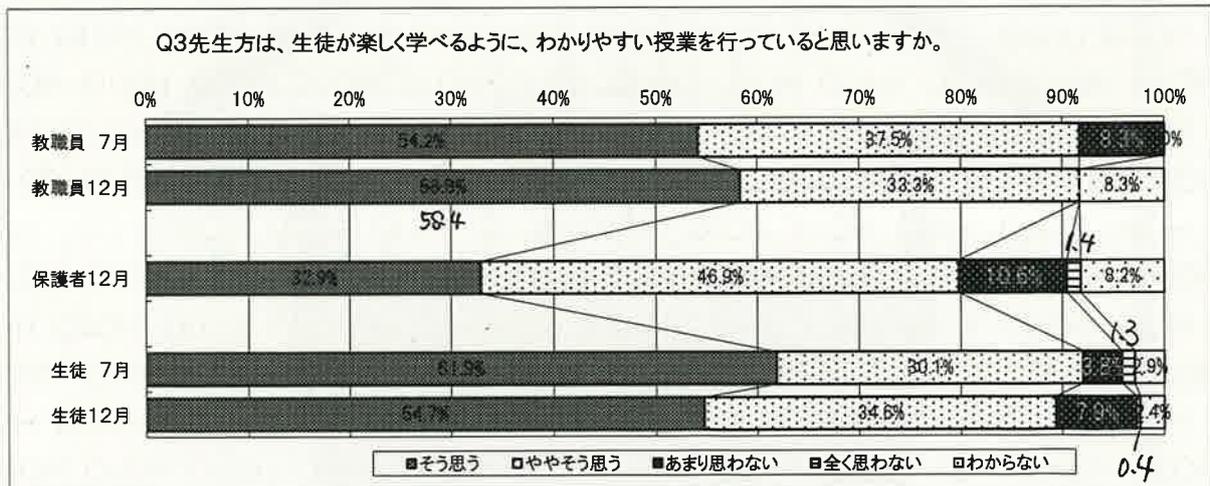
〈アンケート結果〉 ※質問は、生徒用の文言になっています。



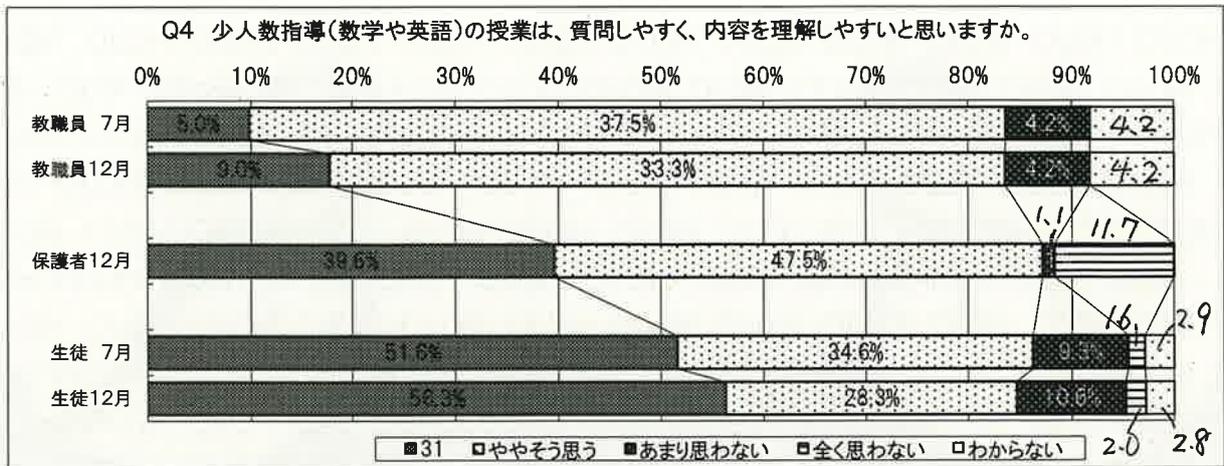
生徒、教職員ともに豊城4マインドを「意識できている」と回答しており、校内での取り組みが浸透してきていることがわかります。一方で、保護者の皆様に、学校での取り組みが十分に伝わっていない面があると受け止めています。今後は、生徒の学習場面や学校生活での成長がより明確にお伝えできるよう、学校だよりや学年だより、ホームページ、授業公開など、情報発信をいっそう充実させていきます。



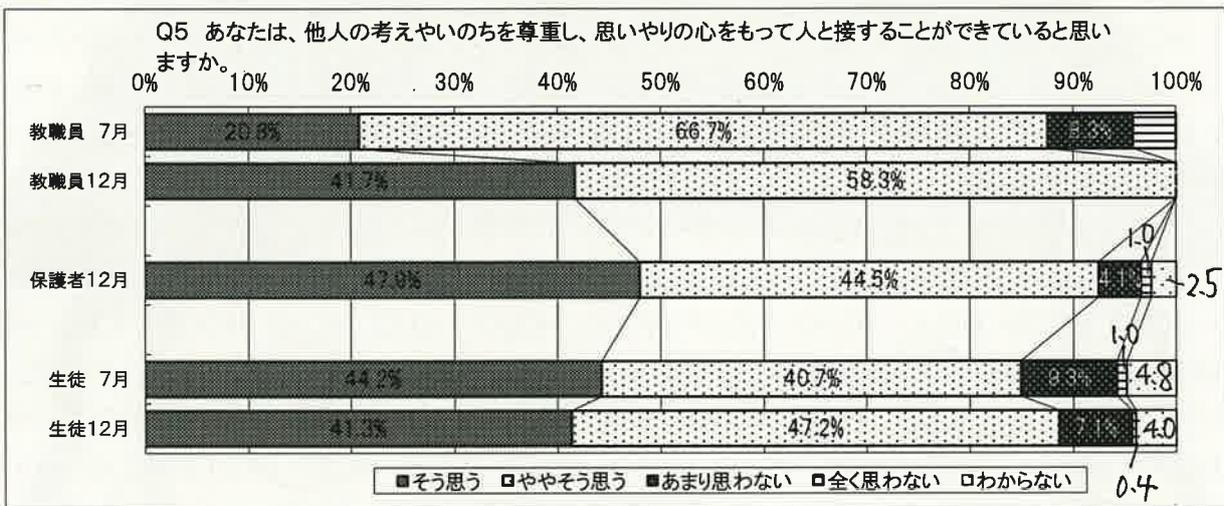
生徒の8割以上と教職員の9割以上が「自分の考えを他者意識をもって伝えられている」と回答し、7月の調査から向上しています。日頃の授業や学校生活の中で、互いの考えを尊重しながら表現しようとする姿勢が更に向上してきていると考えます。今後は、自分の考えを伝えるだけでなく、他者の話を聴く力の強化にも力を入れたいと考えています。



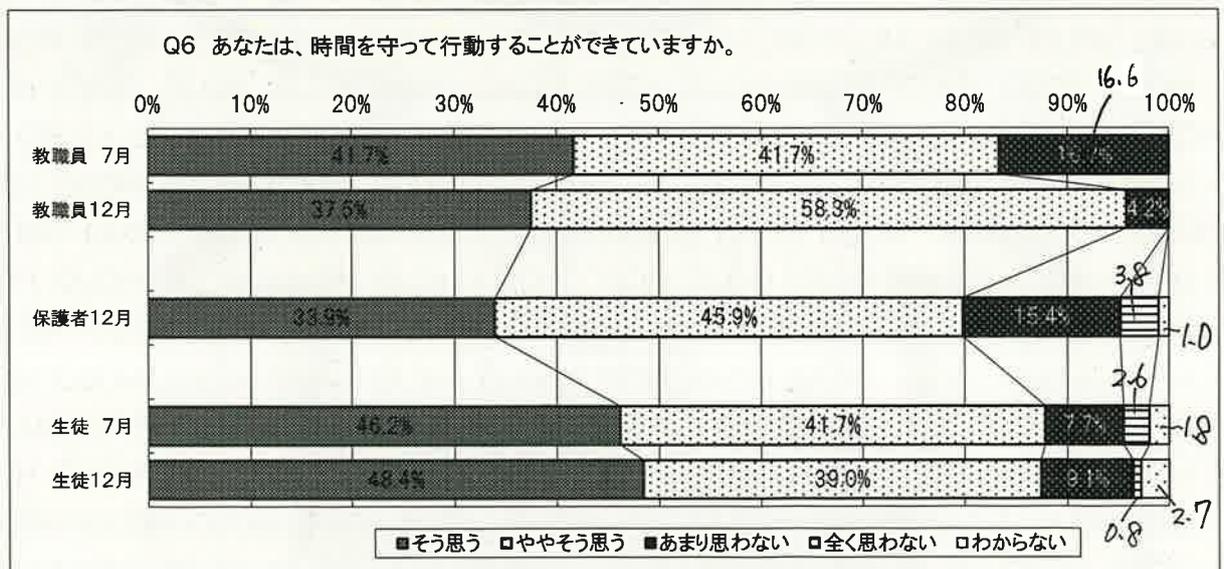
約9割の生徒が「楽しく、わかりやすい授業」と回答しており、多くの生徒が前向きに学んでいます。一方で「あまり・全く思わない」生徒が1割強おり、7月よりやや増加しました。学習内容が高度になり、理解に時間が必要な単元が増えていることが背景にあると考えられます。今後も、生徒が「わかった」「できた」と実感できる授業を目指し、教職員一同、工夫と改善を進めていきます。



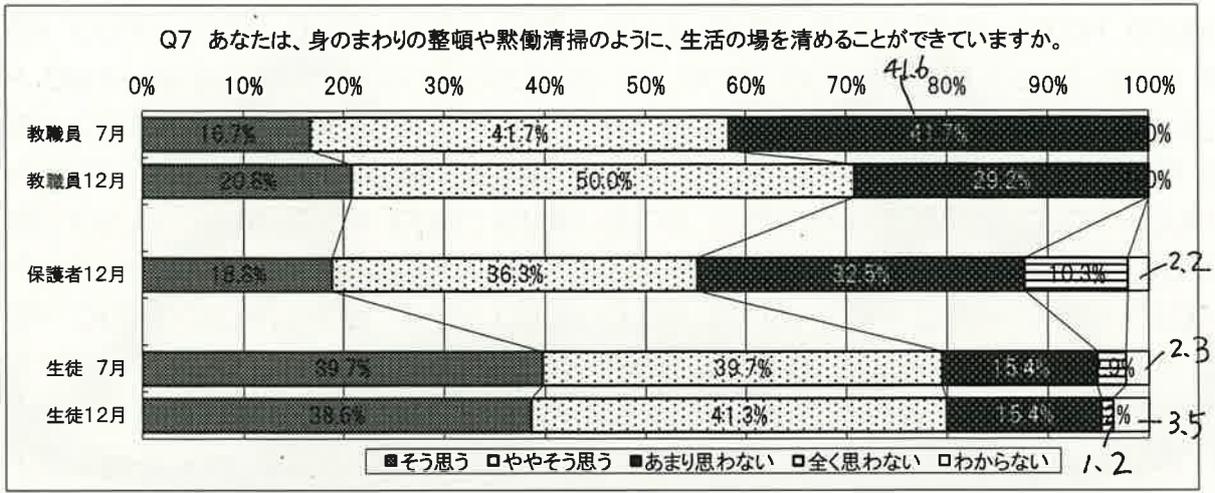
生徒・教職員・保護者のいずれにおいても、「質問しやすい」「内容が理解しやすい」と前向きな回答をしており、多くの場面で学びやすい環境づくりが進んでいるようです。一方で、生徒の約2割が、目的別コース選択制授業において「質問がしにくい」「内容を理解しにくい」と感じています。授業ではコースごとの特性に応じながら、問いかかけ方や考える場、教えあう場などを工夫し、生徒の理解が深まる授業と質問しやすい雰囲気づくりに努めていきます。



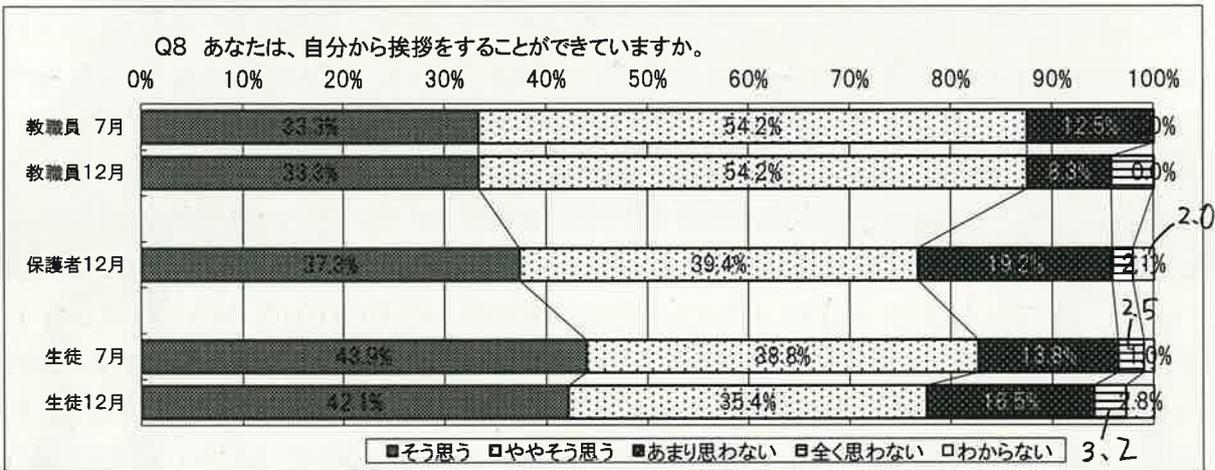
前回同様、9割近くの生徒が、他者を尊重し、思いやりの心をもって人と関わることができるかと回答しています。しかし、「あまり思わない」「全く思わない」と回答している子がいる以上、よりアンテナを高くして学校生活を見守る思いやりの心を育む必要があると感じています。



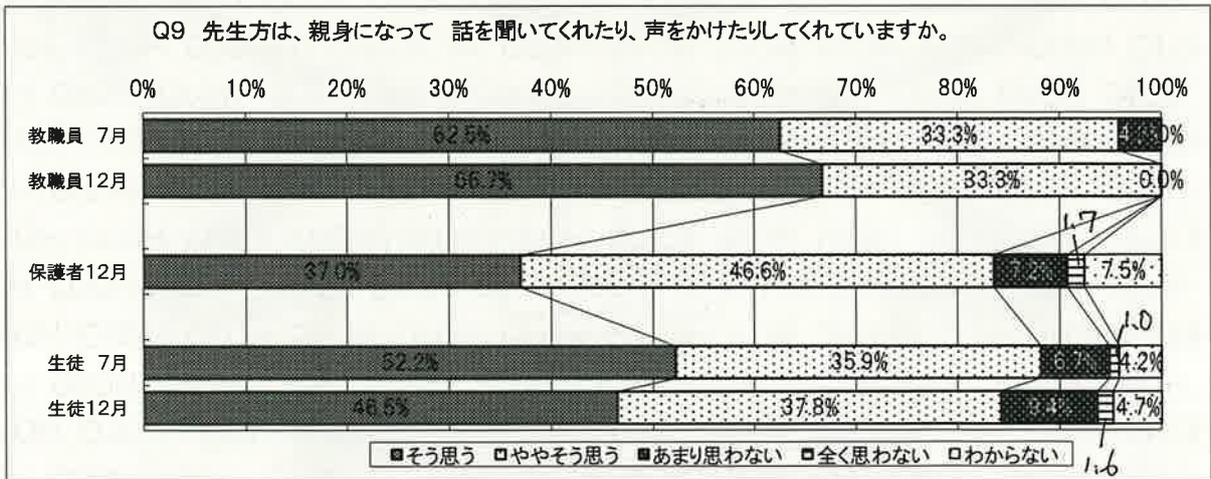
多くの生徒が時間を守って行動することができます。各学年のリーダーが、時間を意識するための工夫について話し合い、クラスで積極的に呼びかけている姿も見られます。今後は、人に言われてから動くのではなく、主体的に行動できる生徒を増やしていきたいと思ひます。



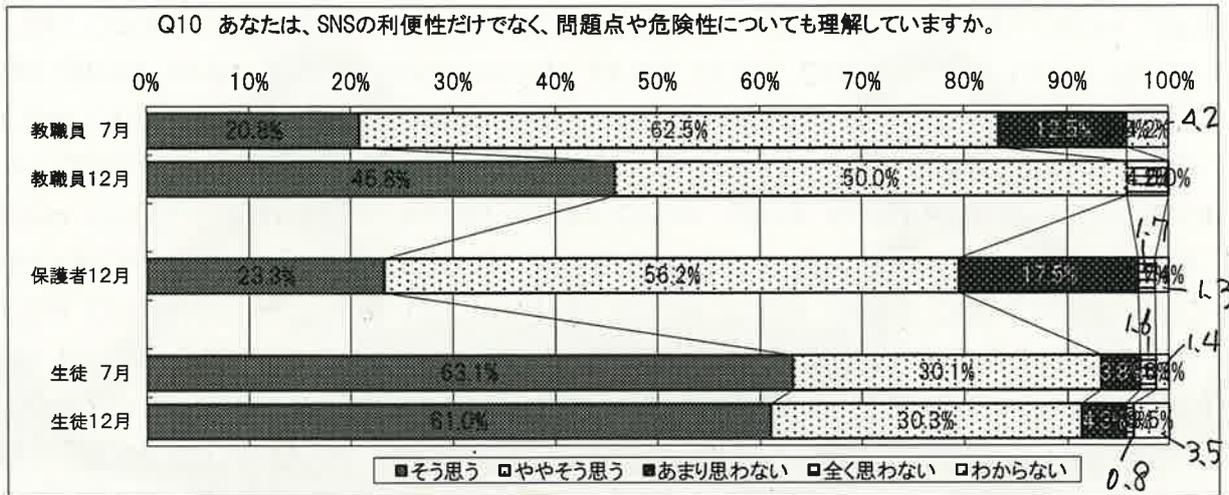
子どもたちと大人とは、満足の度合いが違うということがわかります。「ここまでできているからよい」ではなく、更に上の段階を旨とする意識をもたせるためには、大人が整理整頓の仕方を具体的に示したり、率先して黙働清掃に取り組む姿を見せたりする必要があると感じます。



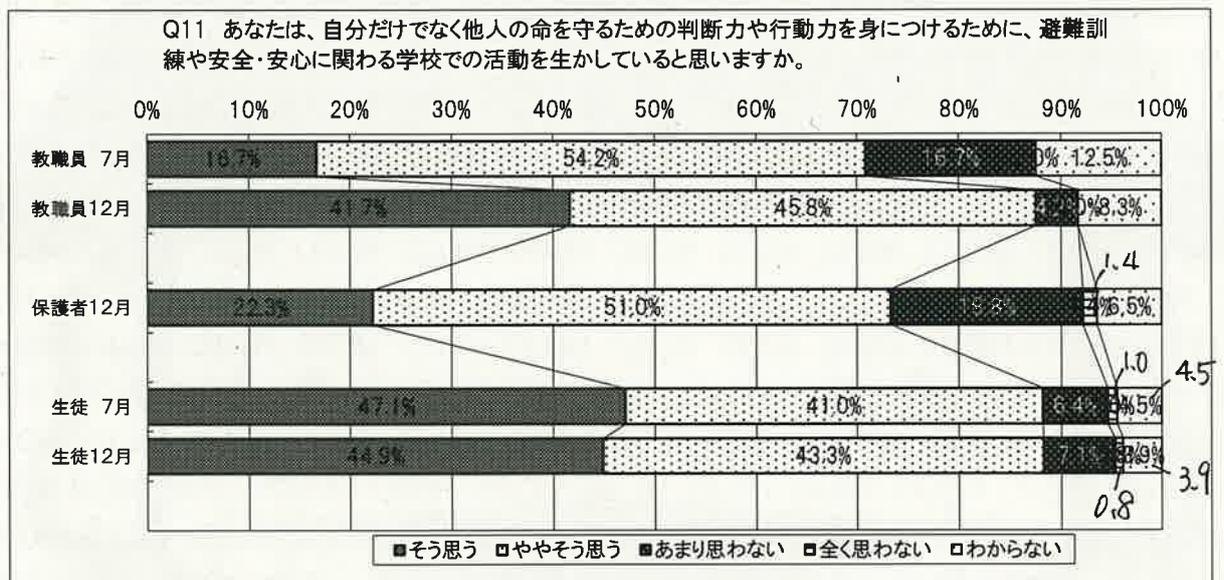
前回に比べ、僅かながら、生徒たちの「そう思う」「ややそう思う」の割合が減少しています。身のまわりの整頓や黙働清掃同様、挨拶に関しても、我々教職員が率先して『一言挨拶』等の手本を示すべきであると考えます。



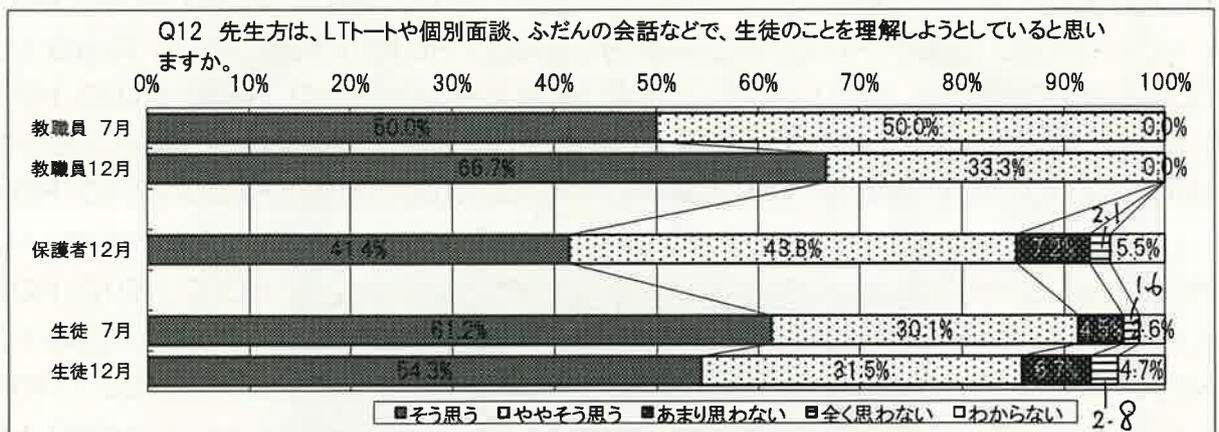
生徒全員が安心・安全な生活を送るためには、教職員が意識的に『声なき声』に耳を傾け、そこに寄り添う感覚をもつ必要があります。「そう思う」「ややそう思う」の割合が多いことに安堵するのではなく、そうではない回答が1割以上あることに危機感をもって生徒との日々を送っていきたいと思います。



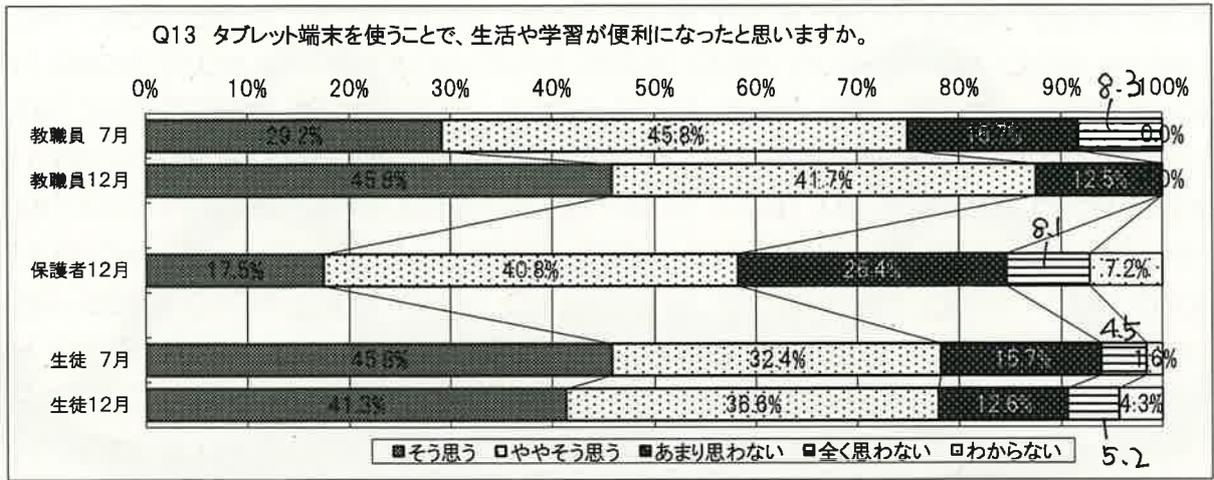
教職員と生徒の多くが、SNSの問題点や危険性について「理解している」と回答しており、適切な使い方への意識が高まっていることがわかります。一方で、保護者の皆様からは「理解している」と回答した方が約8割となっており、生徒・教職員との間に一定の意識の開きがみられました。SNSの安全な利用には、学校と家庭がともに見守ることが大切です。今後とも、生徒の安心・安全を守るため、引き続きご協力をお願いします。



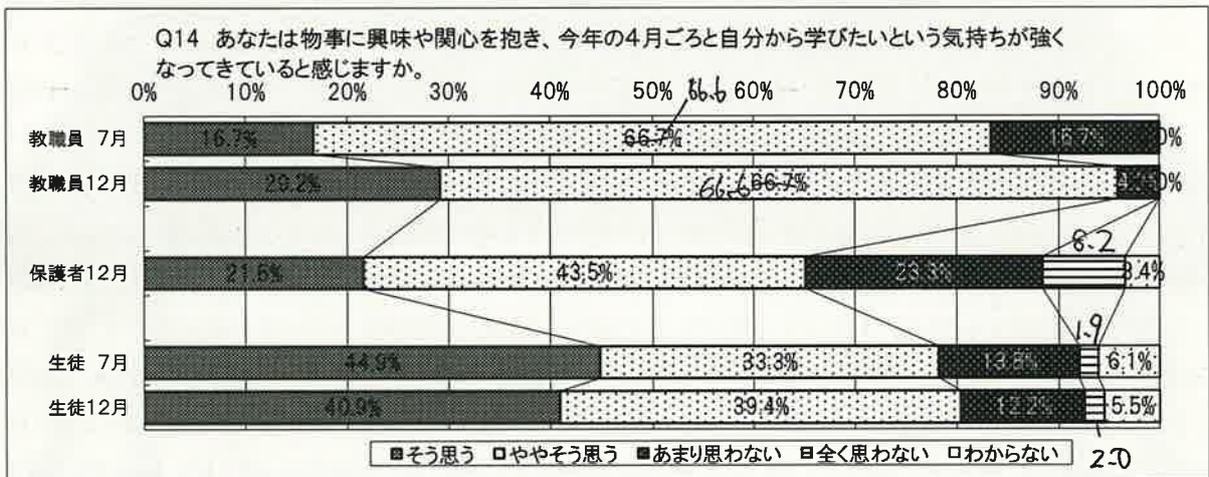
1月の避難訓練は、とっさの場面でも自分で判断して落ち着いて避難行動がとれるようなケースを想定して行いました。今後は、保護者の皆様にも協力していただき、両小学校と連携した引き取り訓練等も実施したいと考えています。



LTノートは、生徒たちの『声なき声』をキャッチするのに非常に重要なツールです。面談等で直接話しにくい内容も、文章であれば伝えられるという生徒が一定数いると思われます。LTノートの取り組みやその有効性、取り扱いの注意点について、いま一度、教職員間で共通認識を図る必要があると感じています。



教職員の多くが「学習が便利になった」と感じています。一方、生徒では「便利になった」と回答した割合が8割弱にとどまり、保護者の皆様からは6割弱という結果でした。今後は、生徒にとって「使いやすい」「学びに役立つ」とより実感できるよう、目的に応じた効果的な活用場面を増やすなど、授業改善を進めていきます。



生徒の8割以上が「興味をもって学んでいる」と感じており、7月より少しですが改善が見られる結果でした。一方で、生徒の約2割弱が「そう思わない」と回答しており、興味を十分にもてていない生徒が一定数います。興味をもって学んでいる生徒には更に好奇心を刺激する問いかけや学習課題を、興味をもちにくい生徒には、基本的な内容が確実に理解できるような段階的な支援を続けていきます。